

令和4年度 鎌ヶ谷市 市民活動応援補助金 事業実施報告

「鎌ヶ谷市市民活動応援補助金」は、市民公益活動団体が、地域の抱える課題の解決のために実施する市民公益活動事業に対し補助金を交付するものです。令和4年度は、5つの団体の事業に補助金を交付しました。

超普通スタジオ

事業概要

『若者を中心とした市民に有益で効果的な情報発信』を軸に地域活性化を目的とした作品制作を行う団体。地域活性化を目指し地域をPRする目的で、漫画やご当地アニメ、動画による作品を制作。



実施結果

市民の地元に対する興味関心を向上させることを目的とし、スタッフ募集、漫画・アニメ制作、Vtuber配信を行った。スタッフ募集では5名の応募があり、その内2名はメインの制作、3名はサポートスタッフとして参加。

漫画・アニメ・Vtuber配信では、合計視聴回数17,614回、SNSへのコメント数628件と反響があり、その結果、新聞やインターネットニュースから取材を受け、記事が掲載されることにより、市民が街と積極的に関わりを持つための一助となった。

鎌ヶ谷スマートエイジング

事業概要

MCI（軽度認知障がい者）の早期発見、早期治療の重要性を啓発し、優しく支える地域社会の実現を目指す団体。市民・専門医・鎌ヶ谷市のネットワークづくりの場として、気軽に立ち寄れて仲間づくりができるカフェの運営。

実施結果

MCIの早期発見、治療の重要性を積極的に啓発した結果、団体会員数が100名を超え、医師や包括支援グループへの受診紹介は過去最高にのぼり、講演会及びシンポジウムは満席と、テーマへの関心が高いことがわかった。（講演会：認知症の早期対応、認知症介護保険利用のポイント。シンポジウム：コロナと認知症の予防と対策あれこれ。）



鎌ヶ谷語り部協会

事業概要

鎌ヶ谷の史跡、文化財、地域にまつわる民話等について学び、「鎌ヶ谷の語り部」として広く一般に伝承活動を行う団体。オリジナルストーリーを加え、鎌ヶ谷の魅力を発信。

実施結果

語り部として語り継いでいくことで、鎌ヶ谷独自の歴史や慣習を次の世代へと伝える。また、各種イベントに参加し、鎌ヶ谷の民話や方言、歴史、オリジナルストーリーなど鎌ヶ谷独自の魅力を伝えるための取組みも行った。その他、街に対する愛着心や探求心を育む為に幼児・生徒向けのお話し会や講座等を開催。語り部の育成に加え、より多くの人へ語り部の活動をPRすることができた。



特定非営利活動法人 健康サポーターJAPAN

事業概要

がん又はその他の病気で悩む相談者に対し、不安や悩みの解消に向けて寄り添い、自分らしく生きることをサポートする団体。イベント等を通じて、ストレッチやエクササイズを提供することで悩んでいる市民からの相談を受ける機会を創出。

実施結果

ストレッチをベースとした無理なく安全に参加できるエクササイズの機会を提供することで、高齢者や病気で動きに制約がある方でも一緒に楽しみながら体の使い方を学ぶことができた。

また、運動習慣者が増え健康意識が高まったことで生活習慣を見直し、健康診断で生活習慣病予備群から脱出した参加者もいた。



五育総合研究所

事業概要

不登校の子どもと、その家族や子どもを持つすべての保護者を支援する団体。よのなかカUP部、マンツーマン学びなおし、講演会・教育相談（保護者対象）など、一人一人に合うサポートを行う。

実施結果

コロナ禍の影響もあり、不登校者数が増え参加者数が2倍程度に増加。活動を続けた結果、行き渋りが始まった本人やご家族に対し、不登校経験のある五育の子ども達がアドバイスをすることで「いつか、きっと元気になれる」と希望を持ってもらった。また、不登校経験のある五育の子ども達はボランティアや公演活動を通し、自信を持つことで学校に行けるようになり、第1希望の大学に合格するなど再び社会と繋がることができた。



コロナ禍とこれからの市民活動

いつもお世話になっております、鎌ヶ谷市協働アドバイザーの影山です。いよいよコロナによる閉塞的な状況から一転し、多くの市民活動が再び動き出しました。鎌ヶ谷市でも様々な市民公益活動団体さんが、活動を再開してくださっています。そのような中助成金を活用しながら新しい事業を展開し始める動きも高まっています。コロナ禍という前代未聞の状況を体験し、疫病により社会情勢が低迷するという経験が、団体の皆さんにインプットされたことで、対面活動だけでなくICTを活用した新たな市民公益活動などが生み出されています。もちろん改めて対面活動の大切さを痛感し、ニューノーマルを前提としたリアルなコミュニティづくりも変わらず必要ではあります。非常に流動性の高いこの時代だからこそ、様々な可能性を模索して多様な活動をどんどん生み出していただけるように、私たちも日々進歩していきたいですね。



プロジェクトマネージャー
影山 貴大